

令和7年度 第2回 尼崎の森中央緑地緑化技術検討会 議事要旨

1. 日時 令和8年2月19日(木) 9:30~12:00

2. 場所 尼崎の森中央緑地パークセンター 会議室

3. 出席者

服部委員長、石丸委員、澤田委員、中瀬委員、宗委員、山瀬委員

4. 議題

(1) 報告事項

(2) 協議事項

①生物の導入について

②第3工区の整備について

5. 議事

議事に先立ち事務局の案内により、議題に関連した場所を現地視察した。

(1) 報告事項(公園整備及び森づくりの進捗)

事務局より資料3 P3~P20に基づき、以下の内容を説明。

- ・尼崎の森中央緑地の植栽基盤整備の状況
- ・令和7年度までの森づくりの実績
- ・モニタリング調査結果
- ・第3工区の活動実施状況
- ・令和8年度の植森づくり計画
- ・中長期のモニタリング計画

おもな意見および質疑は以下のとおり。

◎尼崎の森中央緑地の植栽基盤整備

◆質疑応答

- ・整備予定の植栽基盤について、令和8年9月から植栽が可能になるという認識でよいか。(委員)
→その認識で問題ない。植栽基盤の整備は4月から5月にかけて着手する予定である。(事務局)

◎モニタリング調査(皆伐先行地)

■主な意見

- ・現地視察の際、皆伐地で伐採木の切り株の年輪を読み取ると、株により、初期成長はよいが、その後頭打ちのような傾向が見られるようである。そのような情報を読み取ることによって立地のポテンシャルを把握することが可能となり、今後の森づくりの参考にな

ると考えられる。(委員)

- ・輪伐が1巡する様子を定点撮影しておけば、市民への説明資料として使いやすい。また、輪伐の経過を記録する貴重な資料になる。(委員)
- ・皆伐当初は、市民の理解を得るのが難しい部分もあったが、回復の早さを見て、納得される方が多くなった。モデルとしてよい取り組みであった。(委員)

◎モニタリング調査（定点撮影）

■主な意見

- ・定点撮影写真を提示する際、植栽した年度の情報も加えていただきたい。(委員)
- ・樹高の変化、年輪による成長速度の変化など、生育基盤のポテンシャルを把握できる情報が集積されつつあるので、整理していただきたい。(委員)

◎第3工区の活動実施状況

■主な意見

- ・尼崎の森中央緑地では、市民団体、市民、地元企業、専門家が一緒になって活動し、管理をしている点が良い。自然共生サイトの中で、ここまで管理できている事例はないと思うので、是非アピールしていただきたい。(委員)

◎令和8年度の森づくり計画

◆質疑応答

- ・令和8年度から始まる指定管理業務において、毎年一定面積を皆伐することになっているが、皆伐対象地の樹林が皆伐できるほど成長していない。緑化技術検討会において進め方を検討した方がよいのではないか。(委員)
→指定管理期間である5年間の合計で皆伐する面積が重要であり、年ごとに同じ面積でなくてもよい。また、森の成長状況にもよるし、緑化技術検討会の議論にもよる。数字ありきではないと考えている。(事務局)

◎中長期のモニタリング計画

■主な意見

【鳥類・昆虫類調査】

- ・モニタリング調査の間隔が空くことから、尼崎の森中央緑地における活動のほか、野鳥や昆虫類に関するイベントなどで確認した生物を記録することを強化した方がよい。(委員)
- ・兵庫県が実施しているモニタリング調査結果と同様、イベント等で確認した生物についてもデータベースに蓄積できるような仕組みを構築できればよい。(委員)

【土壌断面調査】

- ・10年程度の間隔で土壌断面調査を実施しても土壌構造の変化は捉えられない可能性があるため、土壌の物理性や化学性についても把握してはどうか。(委員)
- ・土壌断面調査地点を選定する際、地上部から得られる情報などを参考にするとよい。(委員)
- ・土壌断面調査を実施する際、防草シートを剥がした場所のみでなく、防草シートがある場所も調査しておいた方が、防草シートを剥がすことの効果が把握できるのではな

いか。(委員)

【令和8年度の調査】

- ・令和8年度のモニタリング調査について、例年どおり訪花昆虫類を調査する計画となっているが、土壌や地表に生息する昆虫類の状況が把握できていないので、地表徘徊性の昆虫類の調査をした方がよい。(委員)
- ・今年度の土壌貫入調査結果を踏まえ、令和8年度に土壌断面調査を実施してはどうか。(委員)

【学校との連携】

- ・近年は地域探究のカリキュラムで、中学校や高校が地域に出て行くことが求められているので、尼崎の森中央緑地のモニタリングに、中学校や高校が関わってもらえる可能性があるのかどうか、一度確認してはどうか。(委員)
- ・兵庫県の委託業務のモニタリング調査の中で、中学校や高校と連携できればよい。また、市民参加型のモニタリング調査も考えるとよい。(委員)

(2) 協議事項

①生物の導入

事務局より資料3 P21～P23 に基づき説明。

- ・協議の主旨：(生物の導入) 淡水産貝類の追加導入、(動物の無断導入対策) 菌類の導入方針検討にあたっての留意点、在来種の生息に影響を与えたとしても、外来種の駆除を徹底すべきかなどについて、意見をいただく。

◎生物の導入

■主な意見

- ・あなの花野の池の中で繁茂しているアオミドロについて、池の中で子どもに遊んでもらうことで、踏みつけられ、抑制に成功した事例がある。当公園でも期間を決めてやってみればよいのではないかと。(委員)
- ・貝類を導入する際、藻類を食べさせるという機能を目的とするのか、この地域の淡水産貝類の中でも絶滅危惧となっている種の生息域外保全を兼ねるのかを整理した上で、専門家へヒアリングするとよい。(委員)
- ・機能を目的とする際、汽水産の貝類を導入すれば、淡水では繁殖しないため、個体数を増やすことなく、藻類を減らすことができるかもしれない。(委員)
- ・池に生息しているエビ類について、かつては、川で採取したエビ類はマメと一緒に炊いて食べたことがある。そのような食に関わる取り組みもやってみてはどうか。(委員)

◎動物の無断導入対策

■主な意見

- ・資料にある無断導入の記録は、持ち込む人の習性が窺える貴重な記録である。持ち込みのパターンも見えてくるので、データとして蓄積しておくとうい。(委員)
- ・池に持ち込まれたメダカについて、池を乾燥させて完全に駆除するやり方は、池に生息する生物群集を一度リセットすることにもなるため、あまりよくないやり方である。

できるだけ捕獲して、低密度で管理するしかない。(委員)

②第3工区の整備

事務局より資料3 P23～P27 に基づき説明。

・協議の主旨：

(湿生植物群落及びその周辺の整備) 造成後に成立した植生を活用した、植栽計画の見直し、(展望台の整備) 樹林の成長を考慮した、利活用に資する展望台の整備意見、(東側クロマツ林について) 長期的な景観の変化に対応した目標植生の再設定の必要性について、意見をいただく。

◎湿生植物群落及びその周辺の整備

■主な意見

- ・ススキの活着状況からみて、土壌改良しない方が、ススキが大きく育ちにくく、管理しやすいのではないかと。(委員)
- ・ススキ草原には様々なタイプがあるので、どのタイプを目標とするのか、再考してもよいと思う。(委員)
- ・カワラヨモギ群落は、現在の状態を維持するということか。ススキ草原になるのを見守っていくということか。(委員)
- ・カワラヨモギ群落として維持していく。もし、カワラヨモギ群落で維持するのが無理ということになればススキ草原に誘導することもある。そのような順応的管理でやっていく。草本群落を維持するためには、カワラヨモギ群落であっても、ススキ草原であっても管理が必要である。(委員)
- ・現存植生を利用する考え方は、コストも余りかからず、合理的である。(委員)
- ・ハンノキ林の面積が広いとハンノキによる花粉症が懸念される。面積が確保できるかということも含めて、もう少し検討が必要である。(委員)
- ・集水域に大木があると、蒸発散量が増えて、水の供給量が減少する場合があるので、それを踏まえて、樹林の面積や配置を検討していただきたい。(委員)
- ・かやぶき民家の葺き替えや畑のマルチング等にヨシが利活用できるとよい。(委員)

◆質疑応答

- ・湿地周辺のハンノキ林の水管理はどのようになるのか。(委員)
→年間を通じて、土地が乾燥することのないよう、給水することを想定している。水が下に浸透しないよう、遮水シートを設置する計画である。設置範囲は今後、検討していく(事務局)
- ・新たに追加された低木林(資料3 P25 図2-1)の考え方を教えていただきたい。(委員)
→園路を挟んだ南側の低木林との景観的連続性への配慮と、林縁部であることから、来園者に様々な花を観察していただくことを想定した。(事務局)

◎展望台の整備

■主な意見

- ・なぜ緑化技術検討会の場で展望台の議論をするのか。展望台を議論するには、何をを見せて、どのように楽しんでいただくのかを考える必要がある。デザインコンペや発想の豊かな人にデザインを依頼した方がよいのではないかと。(委員)

- ・協議する場が植栽（本検討会）と構想（森づくり協議会）だけであり、21世紀の森全体をデザインする部会がない。地域の歴史も踏まえたデザインを検討して欲しい。（委員）
- ・緑化技術検討会以外の場合で議論すれば、例えば、車椅子の方も眺望を楽しめるような空間にするなどの様々なアイデアが出てくると思う。（委員）
- ・例えば、環境学習で小学生が展望台を利用する際、一度に2～3人しか登れないような展望台では事実上使えない。学校利用に活用できない大きさであれば、存在意義が少くないと思う。（委員）

◎東側クロマツ林について

■主な意見

- ・現時点对応できるのであれば、ウバメガシ林やクロマツ林を別のタイプの植生に置き換える考え方もある。第3工区では夏緑樹林がもう少し多い方がよいと思うので、検討してほしい。（委員）

(3) その他

■主な意見

①ニセアカシアについて

- ・外来樹木ニセアカシアへの対処については、樹皮の処理を徹底して行い、根絶するのが最もよい。（委員）

②エビネについて

- ・できるだけ3月中に植栽していただきたい。（委員）

③材の利活用について

- ・輪伐で発生する材の利活用方法として、引き続き、炭焼き窯について検討していただきたい。（委員）

④隣接地の埋め立てについて

- ・東側の埠頭は公園の歴史にとって重要である。埋め立て時は工場地帯であった頃のモニュメントとして、埠頭の表面だけでも残し、この公園と一体的な物語をつくり、市民に伝え、継承していただきたい。（委員）
- ・埋め立ての際、ラフな護岸にすれば海水が侵入してきて、面白く使えると思う。（委員）
- ・埋立事業における緑地帯等への植栽については、尼崎の森中央緑地のコンセプト、特に地域性種を用いた植栽計画との整合を図る必要がある点について、県内関係者間での共通理解を継続的に確保していただきたい。（委員）

以上